

大谷吉継の首塚

[米原町]

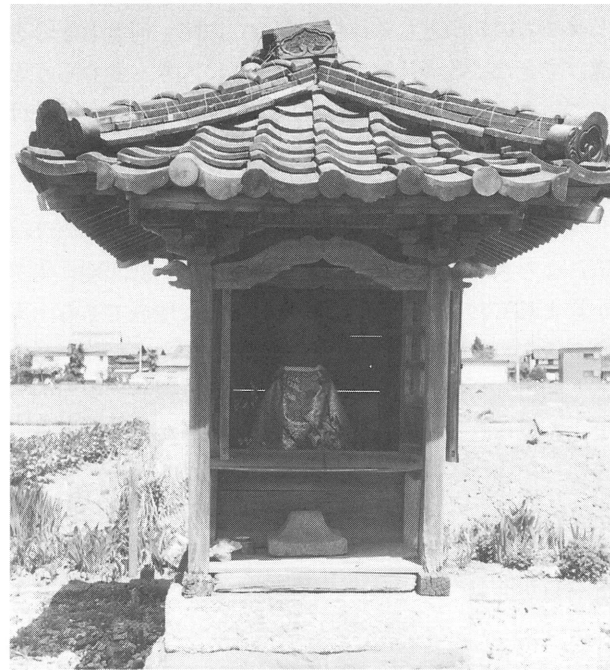
米原町下多良には、関ヶ原合戦で西軍の参謀として著名な大谷吉継の首塚と伝えられる石塔があります。小形の一石五輪塔で、半間四方の覆屋祠中に祀られています。ところで大谷吉継は関ヶ原で自害して、関ヶ原町山中には墓も残されています。その首塚がなぜ米原にあるのでしょうか？

江戸時代に彦根藩士によって著わされた『淡海木間撰』では、この塚を水口城主長束正家の墓と記しています。ところが『改訂近江国坂田郡志』第三卷(1941)によれば正家は関ヶ原合戦後蒲生郡で自害し、その首は京へ送られており正家の首塚ではありえないとしています。

そのうえで郡志では吉継の甥、祐玄僧が吉継の最後を見届け逃れ、菩提を弔うため各地を点々として、米原に葬ったのではないかと記しています。真偽のほどはわかりませんが、おそらくは智将吉継への判官贔屓が生んだ伝説ではないでしょうか。祠堂は今も地元の人たちによって大切に祀られています。

ところで、どこで調べたのでしょうか、大谷吉継ファンのひとたちはこの首塚のことをよくご存知で全国から

見学に来られます。これをご覧の戦国マニアのあなた、ぜひ一度お越しください。(中井 均)



情報BOX

◆伊吹町教育委員会では、土日に親子で楽しく町内を散策していただく、下記のハンドブックを刊行しました。

ふるさと伊吹探訪シリーズ(各A5、30P、カラー)

『いぶきまるかじりイラストマップ』

『いぶきの昔さがし 古代～中世の遺跡』

『いぶきの太鼓踊り』

『いぶきの化石と鉱物』

『北国脇往還』

※町内の学校に配布するほか、伊吹山文化資料館で販売する予定です。

◎問合せ先

伊吹山文化資料館 TEL 0749-58-0252

◆山東町教育委員会では、下記の文化財報告書を刊行しました。

山東町文化財資料集3

『山東町の寺社建築』

※未指定文化財調査の第1段の調査報告書です。

◎問い合わせ先

山東町教育委員会 TEL 0749-55-8110

◆◆編集後記◆◆

『佐加太』16号は初心にかえて坂田郡の考古学を特集しました■縄文時代から奈良時代まで話題尽きない坂田郡です■おまけに、フリースペースの裏ページには戦国マニア向けの記事も■さすが中井さん。中世は外せませんよ■さて、振り返ってみると創刊号は1995年3月に発行しています■7年続けられたのも全国の愛読者の皆様のおかげです■発行月がまちまちのために、いきなり送りつけられた北海道から沖縄までの皆さん■編集子からお願いがあります■今年の当番町は伊吹です。一泊研修先を探しています■こんな我々を引き受けて、昼間と夜の研修ともどもお付き合いしてやろうという方、下記までご連絡ください。(の)

坂田郡文化財ニュース

佐加太 第16号

発行 平成14年5月18日

編集 坂田郡社会教育研究会文化財部会

事務局 〒521-0314 滋賀県坂田郡伊吹町春照37

伊吹町教育委員会生涯学習課

TEL. 0749(58)1121

印刷 立木印刷



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

第16号

— 坂田の考古学が面白い —

2002年5月18日

滋賀県坂田郡社会教育研究会

文化財部会

坂田郡の古墳時代

琵琶湖周辺の低湿地帯から広がった集落は、古墳時代以後、さらに拡大していきます。古墳時代の初頭期にあたる3世紀前半、米原町入江内湖西野遺跡、近江町高溝遺跡・顔戸遺跡・黒田遺跡では、大掛かりな導水路が築かれ、集落内の居住区域、周辺の墓域、生産域の水田区域、祭祀区域などが区分されていきます。

米原町入江内湖遺跡(行司町地区)では、集落内で製作された木製品が多量に出土し、近江町黒田遺跡では、地元で製作された木製品と、北陸・東海・近畿・四国の各地から運ばれた土器を用いた「水辺の祭祀遺構」が、「棟持柱をもつ掘立柱建物」と共に発見されています。

墓制をみると、3世紀の中頃に、低地に「前方後方形の低墳丘墓(近江町法勝寺遺跡)」や「円形の低墳丘墓(同西門寺遺跡)」が築かれ、4世紀代に丘陵頂部に前方後円墳(近江町定納1号墳・5号墳)をはじめとする様々な古墳が築かれるようになります。

古墳時代の中期にあたる5世紀代には、横山丘陵の南端頂部に大形円墳(近江町甲塚1号墳)が築かれ、同丘陵北端の裾部に前方後円墳(山東町村居田古墳)が築かれます。村居田古墳は、6世紀前半代に活躍した息長広姫の墓に比定されていますが、出土埴輪の形状から、それよりも古い5世紀後半代の前方後円墳であることが明らかになっています。

古墳時代の後期にあたる6世紀には、横山丘陵の南端裾部に豊富な器材埴輪をもつ前方後円墳(近江町狐塚5号墳・塚の越古墳・

山津照神社古墳)が築かれた後、米原町塚原古墳・山東町すも塚古墳・伊吹町耳塚古墳など広範囲に横穴式石室を持つ古墳が築かれるようになります。

古墳時代中期・後期の集落構造については、まだ実態が明らかにされていませんが、今後の発掘調査によって、少しずつ明らかにされていくことでしょう。(宮崎幹也)

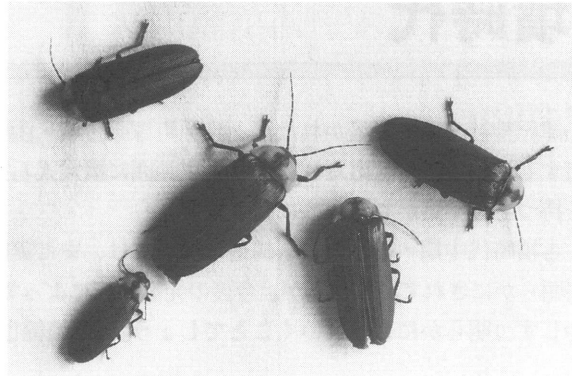


▲近江町山津照神社古墳出土 仿製旋回式獣像鏡

【国指定特別天然記念物】長岡のゲンジボタルおよび発生地

5月の終わりから6月初めの蒸し暑い夜、町内のほぼ全域でホタルの乱舞をみることができます。今では、わが町の初夏の風物詩として代表される光景です。

山東町の中心部。やや南寄りを東西に流れる川を“天野川”といい、この川には古くから沢山のゲンジボタルが生息し、特に市街地の中心部である長岡地区では、全国でも類をみないほどの発生が確認され、昭和27年に全国で唯一国の特別天然記念物として指定を受けました。



▲ゲンジボタル

長岡周辺で発生するゲンジボタルは、最長で約2cmぐらいに成長します。世界には約2000種のホタルが確認され、日本でも44種が記録されているようです。ゲンジボタルは成虫となって、パートナーが見つくと交尾し、2～3日で300～500個の卵を産みます。その後、生まれた幼虫は水の中でカワニナという巻貝を食べて大きくなります。翌年の春に川から上陸し、土の中に潜り込んでサナギとなり、5月～6月に成虫となって乱舞するのです。しかし、その寿命は短く、3日から長くても10日しか生きられないのです。

山東町では、平成8年に保護区域を町内全域に拡大し、成虫だけでなく幼虫やエサとなるカワニナの捕獲を全面禁止するなど、町民の理解と協力があって成り立つ「蛍保護条例」を全面改正し、自然と人が共生できる環境づくりを目指しています。

今年もホタルの乱舞が見られる季節がやってきました。さあ、あなたも自然の神秘を求めて出かけましょう。山東町へ!! (桂田峰男)

坂田郡の奈良時代

[山東町]

奈良時代の坂田郡は、9つの郷が成立し、郷長クラスの施設があったとされる下定使遺跡(米原町)や北方田中遺跡(山東町)、天皇や都に魚介果物などを送っていた筑摩御厨遺跡(米原町)など官衙的色彩の強い遺跡が多く見られます。

さて、標題にあるような坂田郡の概観はこの辺までとして、今回は奈良時代唯一の生産遺跡である菅江遺跡について少し触れてみたいと思います。

菅江遺跡は長浜市と境界をなす丘陵の斜面に位置し、土砂採集工事に先立つ調査により、須恵器を焼いた窯跡と焼き損じなどを投棄した跡が見つかりました。焼かれたもののほとんどが小型品ですが、杯身、蓋、甕、長頸壺、平瓶、環状瓶、鉢、皿などバラエティーに富んでいます。

菅江遺跡の立地する横山丘陵には、当遺跡よりもやや新しい須恵器がブイブイ採集できる西谷遺跡(墓地が隣接しているので晴れた日でないときと近寄り難い)や烏脇遺跡(烏脇)、化粧谷遺跡(朝日)、今中遺跡(野一色)な

どが知られており、このあたり一帯に須恵器の一大生産地があったのではないかと考えられます。これからブイブイ掘れたらいいなと思っています。

それから、以前は少ししか出来なかった菅江遺跡出土品の胎土分析を、現在行っています。その調査結果が出ましたら、お知らせします。(桂田峰男)



その昔、坂田はひとつだった? — 弥生時代編 —

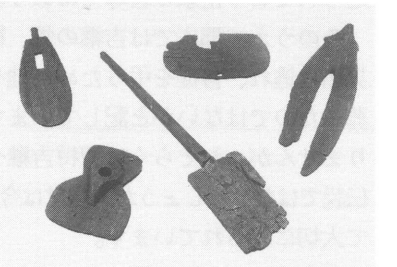
各地で合併問題が話題になっていますが、坂田郡内各町も例外なくその潮流に呑みこまれています。今の行政システムの初源となる律令制度確立以降、何度も変容を遂げてきた“政の仕組み”が今まさに大きく変わろうとしています。では、律令体制以前の『地域の枠組み』はどうなっていたのか。ここでは、弥生時代の遺跡を通して概観してみましょう。

弥生時代前期では、米原町の立花遺跡や近江町の埋塚遺跡など水稲耕作に適した琵琶湖岸に近い低湿地に集落が営まれており、琵琶湖岸から奥まった地域である山東町や伊吹町ではあまり見られません。使用されていた土器も西日本一帯で見られる「遠賀川式土器」と東海地方でよく見られる「条痕文式土器」の両方が見られ、この一帯への稲作技術の伝播が多面的だったことを示しています。中期から後期にかけては米原町の大乾古墳群を始め、近江町の法勝寺遺跡や長門寺遺跡などで多くの方形周溝墓が発見されており、首長墓の構築が活発化してき

たことが判ります。また、中期になると米原町の筑摩佃遺跡や立花遺跡では、管玉を筆頭に各種の玉製品の生産が始まります。

このように郡内の弥生時代の動向を遺跡の分布状況から見ると、圧倒的に米原町と近江町が多く、山東町と伊吹町が少ないという偏りが見られます。但し、この傾向には発掘調査事例の差が多少なりとも関係していると思われ、遺跡の分布頻度が低くても人間の生活痕跡が皆無という訳ではありません。ですから、この傾向を安易に『地域の枠組み』と直結することは早計でしょう。

“弥生時代、坂田はひとつだった?” この問い掛けに答えるためには、まだまだ情報不足と言わざるを得ません。(土井一行)



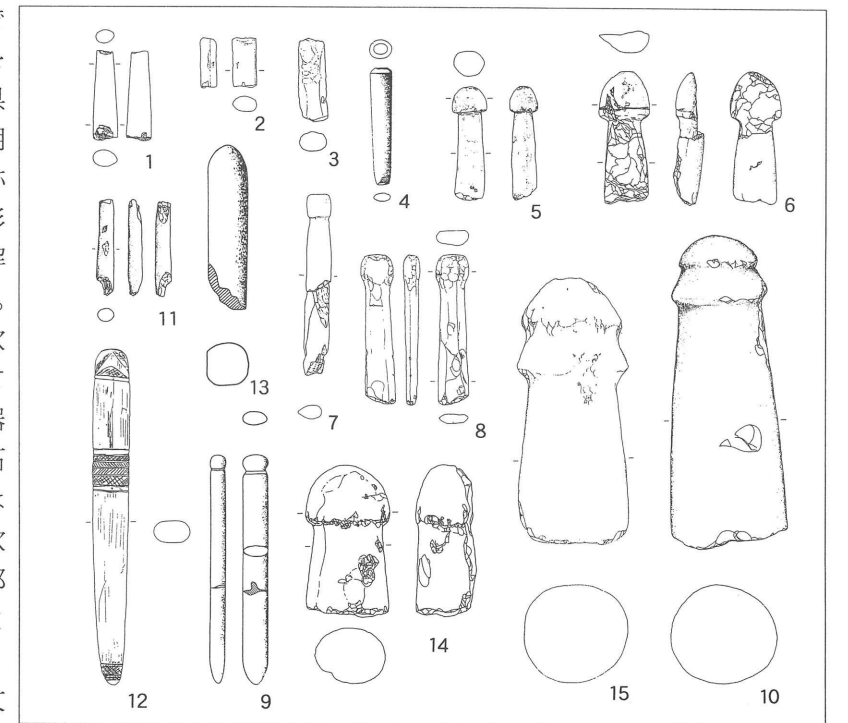
入江内湖遺跡出土木製農具

伊吹山麓の縄文文化

坂田郡は県内でも縄文遺跡の多い地域です。『滋賀県遺跡地図』で県内の縄文遺跡を数えると253ヶ所。旧坂田郡域は71ヶ所で県全体の28%を占めます。この中には、早期の磯山城遺跡(米原町)、中期の番の面遺跡(山東町)や起し又遺跡(伊吹町)、晩期の杉沢遺跡(伊吹町)など、近江の縄文時代を解明するうえで重要な遺跡が含まれています。

さて、郡内でも特に縄文遺跡が多い伊吹町では、多くの不思議な石器が見つっています。線刻の飾りをもつ石剣や御物石器はその代表例ですが、出土数22点を誇る石棒は、その形態もさまざまで、時期的には中期から晩期に属すると考えられます。伊吹町は、何本もの峠道を通じて西美濃山間部と結ばれ、峠道はさらに飛騨や遠く信州まで続いていました。伊吹山麓は、屋根道ネットワークを通して、中部山岳地帯の縄文文化を真っ先に受け入れた地域でした。

(高橋順之)



伊吹町内出土の石棒・石剣(1～10 杉沢遺跡、11 起し又遺跡、12 伊吹遺跡、13 高番遺跡、14 井の田遺跡、15 大清水遺跡)